

須崎市立須崎小学校 英語科授業づくり講座

発行
令和2年1月6日
中部教育事務所

授業者 西村 庸輔教諭 ALT Krystal Sam Borand

We can! 1 Unit4 『What time do you get up?』

単元計画 (本時6/8)

- 第1時 日課の言い方を知る。
- 第2時 頻度や日課を表す表現を聞いたり言ったりする。
- 第3時 一日の生活について、まとまりのある文で伝え合う。
- 第4時 家での手伝いについて伝え合う。
- 第5時 家での手伝いや、自分の好きなことをする時間について伝え合う。
- 第6時 他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝え合う。
- 第7時 どのような伝え方をすれば相手にしっかり伝わるかを考えながら、自分の一日の生活について発表する練習をする。
- 第8時 他者に配慮しながら、自分の一日の生活について発表する。

本時で達成したい目標

話し手や聞き手に配慮しながら、自分の一日の生活について伝え合う。

準備物

- ・ 掲示用絵カード
- ・ アルファベットカード
- ・ リフレクションシート



板書例



1学期から朝の会や帰りの会で English コーナーを設け、児童が英語と親しめる機会を増やしてきました。また、外国語の授業以外でも自分の気持ちや考えを伝え合う場を多く取り入れるようにしています。

外国語の授業づくりのポイント



【授業研究会でのグループ協議の様子】

外国語では、『言語活動を通して資質・能力を育成することを目指す』と目標に明記されている。(学習指導要領解説 P 67) つまり、言語活動は目的ではなく手段であり、西村教諭のように、やり取りとやり取りの間に効果的な中間評価を行い、児童に気づかせたい見方・考え方を引き出したり共有したりすることで、本時の目標達成にせまっていく授業を大事にしてほしい。児童にどのような見方・考え方を働かせてほしいのか、それによってどのような資質・能力を身に付けさせたいのかを、まずは明確にしたうえで単元を構成することにより、単位時間のなかでどのような言語活動を仕組み、中間評価で何を取り上げ価値づけるべきなのかを具体的に見えてくるのである。

授業の概要

まず、SmallTalk を活用し、頻度を用いた既習表現を使って、寝る時間や起きた時間についてやり取りを行う。そして、HRT と ALT がデモを見せることで本時の活動の見通しをもたせ、相手を変えて何度もやり取りをすることを確認した後、Activity①に取り組んだ。中間評価では、「Why?」と理由を尋ねている児童をグッドモデルとして取り上げ、友だちの新たな一面を知ったり自分のことを知ってもらったりするためには、理由も付け加えた方がいいということに気づかせた。単元ゴールはスピーチに向けて、やり取りを積み重ねていくことを通して、話すこと【発表】イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す力を身に付けることをねらった授業であった。

本時の展開

活動内容	指導上の留意点
1 Greeting Chant Small talk	・ スピードを変えて何度か Chant を繰り返す。 ・ Small talk では頻度を使った表現を用いて、子どもとやり取りを行う。
2 Let's Listen Activity① HRT と ALT のやり取りを見て、活動の見通しをもつ。	HRT と ALT がグッドモデルのデモを見せ、やり取りのイメージをつかませる。
3 Activity② 中間評価で全体共有したことを意識しながら、再度やり取りを行う。	本時のねらい達成に向けて見方・考え方を働かせている児童の姿を見取り、中間評価で取り上げることで、Activity②へつなげる。
4 Reflectiocrn 振り返りシートに書き込み、発表する。	何人かの児童に発表してもらおうとともに、HRT は中間評価で共有したことについて振り返り、価値づける。

授業後には、「ジェスチャーをつけて笑顔でやり取りができた。英語が楽しくなってきた」「相手の言葉に反応しながら聞くことができた」など、本時のねらいにそった振り返りの声が聞かれた。また、本時のやり取りだけで満足するのではなく「何ができるの? という言い方を英語でどう言うのかを知りたい」と、次時に向けて「もっとできるようになりたいこと」を発表する児童の姿もあった。本当に伝えたい! 聞きたい! という思いがあるからこそ、このような発言が聞かれたと考えられる。
ただ、単元ゴールがスピーチであることを考えると、各単位時間の活動をやり取りだけで終わらせるのではなくスピーチを行う場が少しでもあれば、話すこと【発表】イのつけたい力に、よりせまることができたのではないだろうか。

「聞きたい」「伝えたい」という笑顔あふれる児童の思いを大切に!

前回の教材研究会で出された「目的・場面・状況をもう少し明確に」「やり取りから発表へつなげていくための工夫が必要」等の課題を改善した単元計画になっていた。第3時にミニスピーチを取り入れたことや、単元ゴールのイメージをもたせたことが大変よかった。また、子ども達の姿を通して、今日にいたるまでの積み重ねが伝わってくるいい授業だった。フロアからもあったが態度面に加えて、内容面での変容・充実を目指した振り返りを行うことができれば、次時によりつながっていったのではないだろうか。
言語活動とは、ただコミュニケーションをすればいいのではなく、自分の考えを再構築することが重要である。言語活動の質を高めるためには、児童が既習事項を想起し、どのように表現すればいいのかを考えたり、その表現を実際に活用したりすることができる場の設定が必要である。そのために教師は、今日の西村先生の授業のように、本単元までの既習事項等を把握し、使いながら使えるようになるという意識をもって授業を行っていくことをぜひ大事にしてほしい。



鳴門教育大学准教授 中妻佳代先生



参観者の振り返りより

- ・ 全8時間のなかで、できることや言うことを少しずつ増やしながらゴールに向かっていくという単元計画であり、学習した内容を絵本にすることや、人権集会でたくさんの人の前でスピーチするという目的意識が明確であったことがよかった。
- ・ 教材研究会を有意義に活用し、課題を明確にしたうえで単元計画を見直したことがプラスの効果を生み出し、児童も教師も達成感を味わうことができたのではないかと考える。
- ・ 単元を通して付けたい力を明確にした言語活動を繰り返すことで生徒は成長していく。小学校の授業を見せていただき、中学校の授業にも共通する点をたくさん見出すことができた。(中学校教員)